

高石市教育委員会 様



平成23年8月2日

高石市立幼稚園再編等検討委員会

委員長 大方 美香

## 高石市立幼稚園再編等計画に関する提言書

標記のことについて、高石市立幼稚園再編等検討委員会設置要綱第2条の規定に基づき、高石市立幼稚園再編等計画について以下のとおり提言します。

### 1. 市立幼稚園の適正規模及び適正配置

市立幼稚園の適正な規模としては、教育上適切な集団活動が実施できる教育環境を整備していくうえで1クラスの園児数はおおむね20名程度、また各年齢において複数学級となる規模を基本と考えるが、支援を要する園児の増加に伴い、課題を抱える養育環境にある園児への対応を考慮した運用を願いたい。

また、市立幼稚園の適正な配置については、中学校区を中心としたまちづくりの考え方に配慮した配置を基本と考えるが、園児の生活エリア及び通園時間・通園距離にも配慮した配置とすること。

なお、高石市立幼稚園再編基準に基づく評価結果等に基づき、施設の耐震化及び大規模改修と併せ、速やかに再編を進められたい。その際、保護者等への説明責任は十分に果たされたい。

### 2. その他市立幼稚園の再編に関すること

市立幼稚園の再編とともに、預かり保育の実施及び3歳児保育の試行実施については、国の子ども・子育て新システムの施行に合わせ導入を図られたい。

また、バス等による通園手段の確保については、継続的な調査・研究が必要と考える。

## 高石市立幼稚園再編基準

### 1. 適正規模の基準

- (1) 1クラスの下限は概ね20名程度とするが、支援を要する園児増加への対応等を考慮し弾力的な運用とする。
- (2) 可能な限り、各年齢において複数学級を目指す。

### 2. 適正配置の基準

- (1) 園児の生活エリア及び通園時間・通園距離に配慮する。
- (2) 中学校区に配慮し、バランスのとれた配置とする。

### 3. 再編（統廃合）の基準

評価項目ごとに適正な配点を行い、総合的な評価により再編が必要な市立幼稚園を抽出する。（満点：100）

#### 【評価項目】

- ① 通園区域内の幼児人口に対する就園率（通園区域内における市立幼稚園に対するニーズを評価する。）  
30%以上：25点、20%以上：15点、20%未満：5点
- ② 築年数（施設の耐用年数や老朽化の度合いを評価する。）  
30年以下：15点、40年以下：10点、40年超：5点
- ③ 敷地面積（子ども・子育て新システムの施行を踏まえ、施設の拡張等に対するキャパシティを評価する。）  
3,000㎡以上：20点、3,000㎡未満：10点
- ④ 幼稚園・小学校の位置関係（小学校との連携を図るための物理的な位置関係を評価する。）  
隣接：15点、比較的近い：10点、やや離れている：5点
- ⑤ 配置的なバランス（他の中学校区内に位置する市立幼稚園の通園圏とのバランスを評価する。）  
優れている：15点、良い：10点、あまり良くない：5点
- ⑥ 避難環境（安心・安全の観点から周辺の避難環境を評価する。）  
良い：10点、あまり良くない：5点

高石市立幼稚園再編に係る評価結果

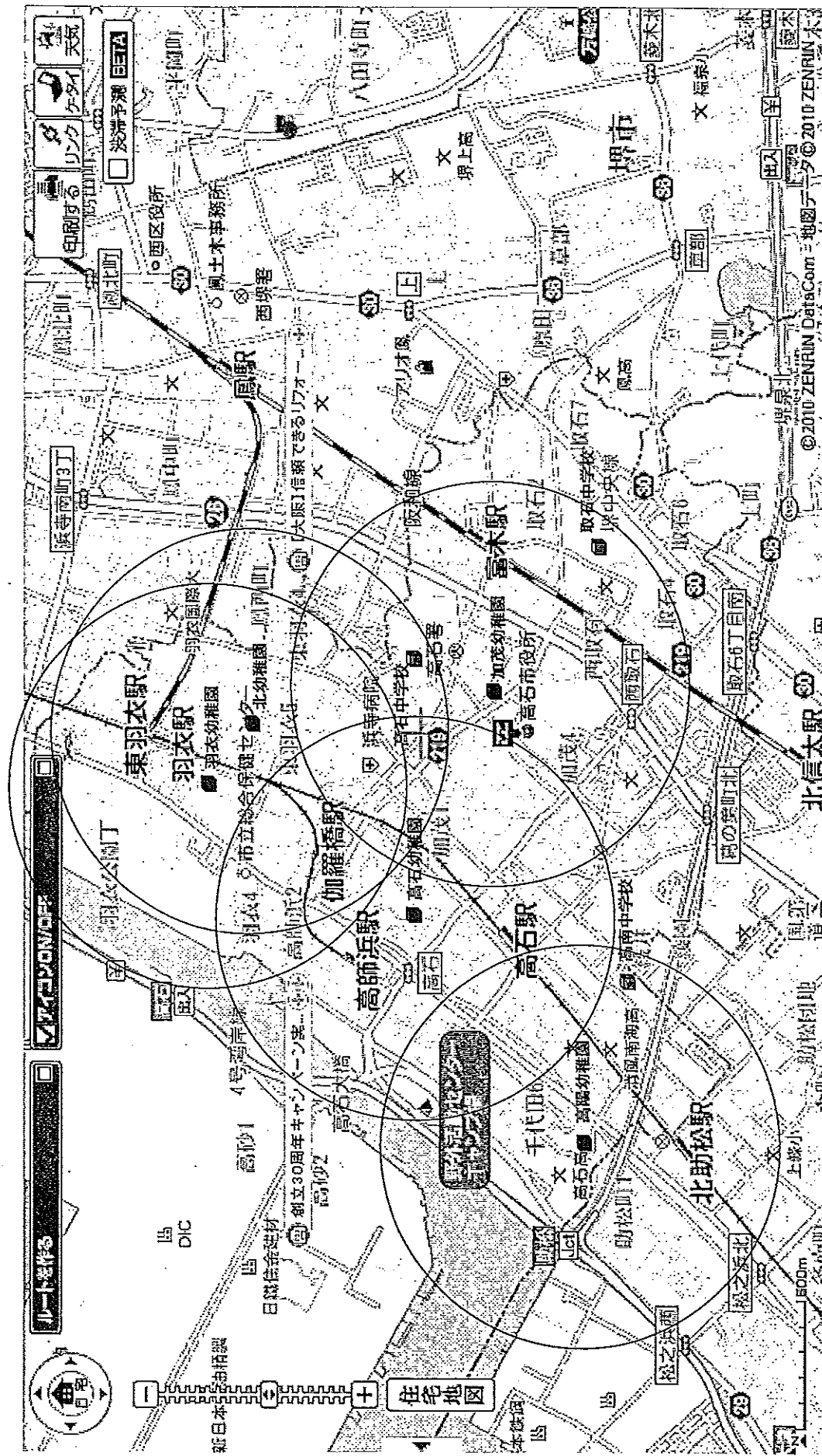
取寄園	中学校区	幼稚園名	定員			園児数 (H23.5.1現在)			定員に対する 就園率			幼児人口 (H23.5.1現在)			幼児人口に対する 就園率			模	面積 (㎡)	築年数 (竣工年月)	構造	Is値	敷地面積 (㎡)	小学校 との 位置関係 (連携)	適正配置 (3園とした場合の 配置的なバランス)	避難環境	総合 評価 (ポイント)			
			4歳児	5歳児	計	4歳児	5歳児	計	4歳児	5歳児	計	4歳児	5歳児	計	4歳児	5歳児	計													
高石駅	高南	高石	70	70	140	11	12	23	15.7	17.1	16.4	73	65	138	15.1	18.5	16.7	管理教室棟	607	38 (S48.03)	RC	0.61	1,380	高石小学 校と若干距 離がある。	他の中学校区内 の幼稚園の通園圏 と重複する箇所が 多くなる。	三方が住宅に囲ま れ、周辺道路が狭 く、周辺道路も硬 装ではないが、避難 所には比較的近い。	—			
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	—	—	10	5	5	40			
高石駅	高南	高陽	70	70	140	18	25	43	25.7	35.7	30.7	121	116	237	14.9	21.6	18.1	管理教室棟 遊戯室 (園児対象外)	617 169	30 30 (S56.03)	RC	0.43 1.06	3,199	高陽小学 校とは府道 を挟み距離 がある。	内陸部の西側端 に位置するため市 中心部からの距離 は遠くなるが、他の 中学校区内の幼稚 園の通園圏との重 複はない。	河川に隣接し、鉄道 駅からも近く、避難 所までの距離もや や遠いが、浜波駅 や避難所には比較 的に近い。	—			
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	—	—	20	5	5	65			
羽衣駅	高石	羽衣	70	70	140	19	27	46	27.1	38.6	32.9	67	82	149	28.4	32.9	30.9	管理教室棟	708	38 (S48.11)	RC	0.51	1,485	羽衣小学 校と隣接し ている。	他の中学校区内 の幼稚園の通園圏 と重複する箇所が 多くなる。	羽衣駅に近く利便 性の高い場所に位 置し、避難所にも隣 接している。	—			
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25	—	—	—	—	—	—	10	15	5	75			
羽衣駅	高石	北	70	70	140	22	21	43	31.4	30.0	30.7	86	93	179	25.6	22.6	24.0	管理教室棟 保育棟 (新耐震基準)	464 288	41 17 (H06.03)	RC	0.40	1,696	東羽衣小 学校と若干 距離がある。	他の中学校区内 の幼稚園の通園圏 と重複する箇所が 多くなる。	羽衣駅に比較的 近く、市の幹線道路 に接する箇所が 多い。	—			
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15	—	—	—	—	—	—	10	5	5	55			
富木駅	取石	加茂	70	105	175	52	39	91	74.3	37.1	52.0	211	181	392	24.6	21.5	23.2	保育室棟 管理棟及び 遊戯室	488 347	38 38 (S48.03)	RC	0.31 0.52	3,632	加茂小学 校と市道を 挟み隣接 している。	取石中学校区内 唯一の幼稚園であ るため、配當的な比 較は難しいと考え る。	市の中心部に位 置し、周辺道路も敷 設されており、避難 所にも近い。	—			
			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15	—	—	—	—	—	—	20	10	10	75			
計			350	385	735	122	124	246	34.9	32.2	33.5	558	537	1,095	21.9	23.1	22.5													

## 評価結果の説明

- ① 通園区域内における市立幼稚園に対するニーズを評価するため、通園区域内の幼児人口に対する就園率を調査した結果、平均は 22.5%で、最も高い通園区域は 30.9%の羽衣幼稚園で、最も低い通園区域は 16.7%の高石幼稚園であった。
- ② 施設の耐用年数や老朽化の度合いを評価するため、園舎の築年数を調査した結果、北幼稚園の管理教室棟が 41 年で最も古い、保育棟については、新耐震基準による平成 6 年 3 月の竣工で 17 年と最も新しく、ポイントは 2 棟の平均とした。他の園舎については、すべて 30 年以上を経過しているが、その中では高陽幼稚園の園舎が比較的新しい。
- ③ 子ども・子育て新システムの施行を踏まえ、施設の拡張等に対するキャパシティを評価するため、幼稚園の敷地面積を調査したところ、高陽幼稚園及び加茂幼稚園が 3,000 m<sup>2</sup>を超えており、幼稚園設置基準に照らしても敷地には余裕があるため、施設の増築や改築にも対応可能と考えられる。
- ④ 小学校との連携を図るための物理的な位置関係を評価するため、幼稚園と小学校の位置関係を調査したところ、羽衣幼稚園が羽衣小学校と隣接しており、連携の可能性の高さが見受けられる。物理的に近いということについては、災害発生時の安全性の高さを含め、連携のしやすさに合理性があるものとする。
- ⑤ 他の中学校区内に位置する市立幼稚園の通園圏とのバランスを評価するため、中学校区に配慮した配置を調査したところ、取石中学校区の加茂幼稚園と高南中学校区の高陽幼稚園の通園圏が、他の中学校区の幼稚園の通園圏と重複する箇所が少なく評価できる。また、高南中学校区の高石幼稚園及び高石中学校区の羽衣幼稚園並びに北幼稚園については、他の中学校区の幼稚園の通園圏と重複する箇所が多くなる。(別図参照)
- ⑥ 安心・安全の観点から周辺の避難環境を評価するため、周辺環境を調査したところ、各幼稚園ともに避難所には比較的近く、災害発生時の避難は比較的容易であると考えられるが、高石幼稚園については、三方が住宅に囲まれ、周辺道路も狭隘であるため、避難経路の確保が難しいと考えられる。

(別図)

※ 各幼稚園を中心とした円の半径は800mで、徒歩で約10分のアクセス圏としている。



## 高石市立幼稚園の再編等について

再編については、幼児の生活エリアや小中学校との連携を考慮し、1中学校区1幼稚園を基本とした再編を実施することとし、5園を3園に再編することが望ましい。

高南中学校区における再編については、総合評価の低い幼稚園を廃園することとし、平成24年度の4歳児の募集については、これを行わず、平成24年度末をもって廃園することが望ましい。

ただし、平成24年度においては、廃園の対象となる幼稚園での幼児教育における適切な集団の規模が確保できない可能性が高いことから、教育的配慮が必要と考える。

また、高石中学校区における再編については、総合評価の低い幼稚園を廃園することを基本とするが、廃園対象幼稚園及び廃園時期については、地域における市立幼稚園に対するニーズや小学校との教育的連携を考慮し、また国の子ども・子育て新システムの動向及び同システムに係る新法の施行内容を見極めたうえで決定することが望ましい。

なお、子ども・子育て新システムが提唱する幼保一体化に向け、理念を持って将来的には、さらなる市立幼稚園等の再編等により、質の高い幼児教育・保育の一体的提供等が可能となるシステムの構築が必要と考える。